

「我が国の地球観測の将来計画に関する討論会」の開催について
(第8回 TFリモセン分科会 全体会合)

1. 主 催: 今後の宇宙開発体制のあり方に関する
タスクフォース会合・リモートセンシング分科会 (TF リモセン分科会)

2. 日 時:平成 30 年 1 月 20 日 13:00~17:00

3. 場 所: 東大理学部 1 号館 3 階 336 号室

4. 開催趣旨:

日本学術会議において、我が国と世界の地球観測衛星プログラムの科学的、社会的貢献の精査を通して、有効で持続可能な将来構想の提示を行うために、地球観測将来構想に関する検討小委員会を設置され、衛星地球観測の現状把握、衛星観測によって生み出された科学的成果と社会貢献の把握、これに基づく将来の「我が国の衛星地球観測のあり方」に関する提言が7月に制定された。

TF リモセン分科会では、当該の日本学術会議の提言に沿う形で、我が国の地球衛星観測計画のグランドデザインの立案の検討を、TF 地球科学研究高度化 WG および実利用連絡会で行ってきた。このグランドデザインの結果の中で、特に平成 30 年度以降の先進光学衛星、先進レーダー、GOSAT シリーズ、AMSR 後継機などの衛星地球観測ミッションのロードマップの検討結果について紹介するとともに、内閣府宇宙政策委員会による将来展望、関係省庁、学協会などからの意見とニーズを確認し、我が国の衛星地球観測の将来計画について多角的に検討することを目的とする。

5. 次 第 (案):

第一部 司会:祖父江真一 (TF リモートセンシング分科会 事務局)

13:00 開催挨拶

六川修一 (TF リモートセンシング分科会代表幹事)

13:10 宇宙基本計画・工程表について

行松泰弘 (内閣府宇宙戦略推進事務局審議官)

13:30 将来の我が国の衛星地球観測のあり方に関する提言

佐藤薫 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科教授)

13:50 気候変動問題に関する日本の地球観測の立ち位置(仮)

中島映至 東京大学名誉教授

14:10 地球衛星観測計画のグランドデザイン（案）
本多嘉明（TF リモートセンシング分科会幹事：科学研究高度化 WG 長）

14:30 実利用から見たわが国の地球観測
岩崎 晃（TF リモートセンシング分科会幹事：実利用連絡会）

14:45-15:00（休憩）

第二部 司会：岩崎 晃（TF リモートセンシング分科会幹事）

15:00 グランドデザイン(案) 短期ロードマップでの提案ミッション
・ミッション提案代表 P I （各5分）
北海道大学 江淵直人教授、東北工業大学 浅井和弘教授、
名古屋大学 高橋暢彦教授、情報通信研究機構 笠井康子上席研究員
千葉大学 本多嘉明准教授

15:25 グランドデザイン(案)および短期ロードマップへの意見
・参加学会からの意見反映について：
祖父江真一（TF リモートセンシング分科会 事務局）
・政策との関係を鑑みたご意見（各3分）
内閣府 宇宙戦略推進事務局 高倉秀和参事官
総務省 情報通信政策局 宇宙通信政策課 翁長久課長
経済産業省 製造産業局 宇宙産業室 山崎秀人室長補佐
文部科学省 研究開発局 宇宙開発利用課 山之内裕哉企画官
環境省 地球環境局 総務課 研究調査室 磯野 賀瑞夫室長補佐
水産庁 増殖推進部研究指導課 海洋技術室 鏑木健志課長補佐
気象庁 観測部気象衛星課 宮本仁美課長

16:35 短期ロードマップ等についての議論
・提案ミッションの短期ロードマップへの落とし込みについて
・ロードマップの合意方法について
・日本学術会議 大型研究計画への対応について

16:55 今後に向けて
岩崎晃（TF リモートセンシング分科会幹事）

本郷キャンパス 理1号館

本郷アクセスマップ



※TFリモセン分科会概要

1. ミッション：地球観測に関わる学問分野の断片化を防ぎ、その総合化をはかる、地球観測と社会とのインターフェースを担い、実用化への道筋をつける、官+産+学の協働により、問題解決ツールとして地球観測データ利用を推進する

代表幹事： 六川 修一（東京大学）

幹事： 本多 嘉明（千葉大学，地球科学高度化WG）

岩崎 晃（東京大学，実利用WG）

中須賀 真一（東京大学）

秋山 演亮（和歌山大学）

事務局： 日本リモートセンシング学会、写真測量学会、宇宙航空研究開発機構 地球観測研究センター

参加団体（24学協会）：日本リモートセンシング学会、日本写真測量学会、日本海洋学会、日本地球惑星科学連合、日本活断層学会、日本農業気象学会、日本気象学会、日本沙漠学会、日本情報地質学会、日本雪氷学会、日本測地学会、日本大気化学会、日本地理学会、日本地震学会、計測自動制御学会、システム農学会、日本森林学会、水文・水資源学会、日仏海洋学会、日本地球化学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、地理情報システム学会、水産海洋学会、BizEarth

連携団体： 日本航空宇宙工業会

検討開始： 平成24年11月 3日

設立： 平成25年 7月13日

(参考資料) TFリモセン分科会の最近の活動状況について

(1) 「我が国の衛星地球観測計画」公開シンポジウム

平成29年7月18日(火)に「我が国の衛星地球観測計画」公開シンポジウム(主催:日本学術会議 地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会。共催:TFリモセン分科会)が日本学術会議講堂において開催された。約200名もの参加者を得た盛況なものであった。日本リモートセンシング学会においても企画委員会を中心にして、TFリモセン部会の事務局として、開催の支援を行った。

日本学術会議では、我が国と世界の地球観測衛星プログラムの科学的、社会的貢献の精査を通して、有効で持続可能な将来構想の提示を行うために、地球観測将来構想に関する検討小委員会を設置され、衛星地球観測の現状把握、衛星観測によって生み出された科学的成果と社会貢献の把握、これに基づく将来の「我が国の衛星地球観測のあり方」に関する提言が7月に制定されている。この提言の紹介とともに、将来にむけたパネルでは、次の内容がまとめられた。

- ① 地球観測の継続性が重要。継続性は利用官庁の継続性だけではない、科学技術としての継続性も科学者側からいっていく必要がある。産業価値も生んでいく可能性があり、アカデミアもしっかり言っていく必要がある。
- ② 科学技術という視点では、技術をしっかりプールしていく。そのための仕組みを作っていく必要がある。人材育成も含めた形で科学技術そのものも発展させていく。
- ③ 地球観測のさまざまな価値を多角的にアピールしていくことが重要。
- ④ 学術会議の提言を一步として、利用官庁と学術会議、技術を出す側、科学を研究する側が議論をする場をもっと作るべきではないか。

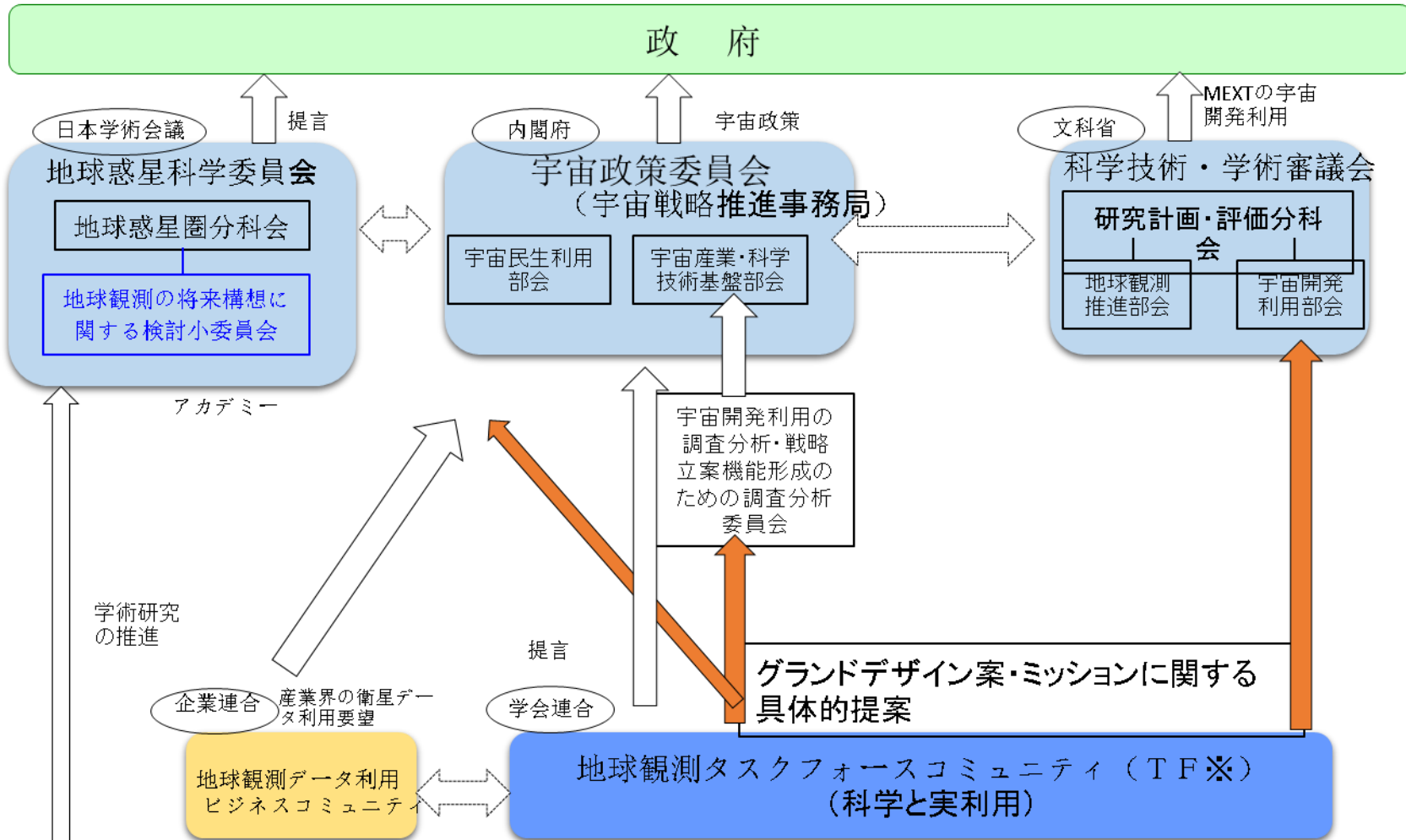
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-t247-3.pdf>

(2) 我が国の地球衛星観測計画のグランドデザインの立案

日本学術会議の提言を受け、TFリモセン分科会※では、我が国の地球衛星観測計画のグランドデザインの立案の検討を実施中である。このグランドデザインの結果は12月7日のTF幹事会および来年1月20日のTF全体会議(いずれも東京大学本郷キャンパスで実施)で審議される。

本グランドデザインの提案は、文部科学省における科学技術・学術審議会、研究計画・評価分科会、宇宙開発利用部会、また、宇宙政策委員会における宇宙民生利用部会・宇宙基盤部会の下での調査分析委員会などにおける有識者議論の源泉資料の一つとなることを目指している。これらを通じて、宇宙基本計画の工程表平成28年度改訂表4.(2)①ii)衛星リモートセンシング「その他リモートセンシング衛星の開発、センサ技術の高度化等の検討」に反映されていくことを目指して、TFリモセン分科会として活動していく予定である。

地球衛星観測に関連する組織



※日本リモートセンシング学会、日本写真測量学会、日本海洋学会、日本地球惑星科学連合、日本活断層学会、日本農業気象学会、日本気象学会、日本沙漠学会、日本情報地質学会、日本雪氷学会、日本測地学会、日本大気化学学会、日本地理学会、日本地震学会、計測自動制御学会、システム農学会、日本森林学会、水文・水資源学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、地理情報システム学会

WMO, UNFCCC, IPCC, GEO, CEOS, WCRP, Future Earth, FAO, GCOS

NASA, ESA, CNES, DLR, ASI, ISRO, CSA, EUIMETSAT etc